

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

町議会議員 (1)
区長会長 (1)
公民館長 (1)
放課後児童クラブ指導員 (1)
PTA会長 (1)
学 校 (3)

合計8名

地域コーディネーターは
公民館長が兼ねています。

(2) 協議会の内容

- ◇第1回 6月24日(月)
 - ・指導主事訪問日を利用した児童の様子の参観
- ◇第2回 7月4日(木)
 - ・児童の様子(学習・体力・発育・健康・生活習慣)
 - ・校外での児童の様子や地区内危険箇所について◇
- 第3回 10月30日(水)
 - ・指導主事訪問日を利用した児童の様子の参観
- ◇第4回 1月29日(水)
 - ・年間を通しての学校状況の報告
 - ・次年度に向けての協議 等
- ◇第5回 2月9日(日)
 - 一日学校公開日を利用して、
 - ・児童の生活の様子

(3) 協議会における成果と課題

学校行事等(畑、田んぼ、花壇)の協力を地域の方に依頼できている。
地域の方々や保護者の声を聞くことで、学校教育の改善点等の参考となっている。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

- ①豊かな自然環境の中での農業体験活動を通して、自然を愛し、働くことの喜びや尊さを体得させる。
- ②様々な体験活動を通して、仲間と協力したり、仲良く助け合ったりする心を育てる。
- ③稲作や野菜の栽培活動をする中で、見つけたり、考えたり、調べたりすることを通して、ものの見方や考え方を広げるとともに、食に対する感謝の念や命を大切にすることを深め、食を大切にすることを育てる。
- ④地域の方々から農業に関する様々な知識を教えていただくことによって「地域との交流」を図る。

(2) 活動の実際

- ①米作り体験と地域での販売～地域から学び地域に返す活動

【田植え】

5月29日、学校田において田植えを行った。地域の方や保護者ボランティアの指導や協力の下、全校児童により行われた。活動前に米の種類や生育に関する説明をもらった。

【米販売体験】

11月17日、米の販売体験を行った。5・6年生が協力して、製品の製作や販売場のレイアウト設計、広報の方法と印刷物の作成等を行った。当日は保護者や地域の方々が来校し、盛況の内に完売した。



②野菜作り体験を通して地域の特色を知る活動（全学年）

【苗植え】

5月17日、学校の畑「よしのっこ農園」で苗植えを行った。栽培する作物は各学年の児童がかぼちゃやミニトマト、スイカなど夏野菜を中心に興味のある物や、収穫後の加工を視野に入れた落花生や生姜を選定した。



【収穫】

サツマイモが昨年より豊作で、全校で焼き芋をして食べることができた。また、スイカも例年通り全校児童で食べることができ、より収穫の楽しみを体感できた。



（3）地域コーディネーターの活動概要

本校の体験活動を米作りと野菜作りを中心にしたものということもあり、農業に関する知識の豊富な方にコーディネーターを委嘱した。田植えや稲刈り体験といった大がかりな活動時には、自身の持つ農業に関する知識を活かして児童への指導も行った。

（4）特に工夫した事項

単なる米作り・野菜作り体験にとどまるのではなく、田植え・苗植えや収穫等の生産から、広報や販売等流通に至る一連の流れを視野に入れ、5・6年生の児童を中心に計画を立てさせた。6年生は修学旅行先で自分たちが収穫したお米をアピールした。また、「感謝の会」を企画するなど、地域から得られた糧を感謝の気持ちと共に地域に還元する活動を通して、地域の一員として地域とつながりがあることを自覚させた。

（5）成果と課題

米離れが進む昨今、幼い頃から稲作や野菜作り体験を行うことによって、その大変さと楽しさ、収穫の喜びを味わい、米作りに関わる方々への感謝の気持ちが育まれることを目指して活動を進めてきた。田や畑の看板づくりや生育に関する調査とまとめ、米販売の計画と準備等、児童が中心となった活動を展開することができた。今年も、修学旅行でアピールの機会をもつなど、地域との関わりの範囲を広げることができた。

今後の課題として、より多くのボランティアとの交流をもつカリキュラムの工夫が挙げられる。総合的な学習での時間の確保と共に、社会科や理科など他教科と結びつけたカリキュラムの構築も考えていきたい。地域人材を組織的に継続的に更なる協力をお願いした。